

## お言葉どおり、この身になりますように

ルカによる福音書 1:26～38

2018. 12. 16 熊取教会

26 六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。27 ダビデ家のヨセフという人のい  
5 いなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。28 天使は、彼女のところに  
来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」29 マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶  
は何のことかと考え込んだ。30 すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。  
31 あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。32 その子は偉大な人になり、いと高き方  
の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。33 彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わる  
10 ことがない。」34 マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませ  
んのに。」35 天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、  
神の子と呼ばれる。36 あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われ  
ていたのに、もう六か月になっている。37 神にできないことは何一つない。」38 マリアは言った。「わたしは主のはした  
めです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

15

### 【神の言葉】

先週、イザヤ書 55 章から学びました。

9 天が地を高く超えているように／わたしの道は、あなたたちの道を／わたしの思いは／  
20 あなたたちの思いを、高く超えている。10 雨も雪も、ひとたび天から降れば／むなしく天  
に戻ることはない。それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ／種蒔く人には種を与え  
／食べる人には糧を与える。

神の恵みは、私たちの思いを超えています。天からの水は地を潤し豊かな実りをもたらす。種まく人に種を与え、食べる人には糧を与える。

25 種も糧も、同じ表。それは神の言葉です。神の言葉はわたしたちを養い、また、人の  
心に蒔かれて新たな実りをもたらす。主イエスは種まきの譬えで、神のみ言葉が私たちの心  
に蒔かれたときのことを教えてくださいました。

天からの水が豊かな実りをもたらす。11 そのように、わたしの口から出るわたしの言葉  
も／むなしくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ／わたし  
が与えた使命を必ず果たす。

30 「言葉」というヘブライ語は「出来事」という意味がある。神の言葉は、天からこの地  
上に差し込んで、出来事となりました。救いの出来事。今日のルカによる福音書は、キリ  
スト誕生の出来事の始まりを示しています。

### 【神の選び】

35 受胎告知。未婚の乙女が、「子供を授かる」と告げられる。ガリラヤのナザレの乙女マリ  
ア。ガリラヤはガリラヤ湖の西に広がる緑豊かな地方です。エルサレムまで 100 km。ナザ  
レは山の中腹にある村。この村の名は旧約聖書には出て来ません。目立たない小さな村で  
した。その村の乙女マリア。マリアという名はありふれた名です。聖書の中には何人もの  
マリアがいます。

中世の絵で受胎告知を受けるマリアは、美しい建物の中で貴婦人のような装いで、本を  
読んでいる姿で描かれることが多いようですが、これはマリアの身分を高く描くようにな  
った時代の、画家のイマジネーションでありましょう。今回配布したキャンドル・サービ  
スのプログラムを作るために、キリスト誕生にまつわる絵を探していたところ、ご降誕の  
5 絵に混じって、「マリアの誕生」の絵がありました。カトリックでも、正教会でも、マリア  
には大きな尊敬が払われています。正教会ではマリアの誕生日は祝日です、9月8日、お  
そらく、教会の言い伝えをもとにしたものでありましょう。けれども、プロテスタント教  
会は、聖書のみ。伝承には頼らない、という伝統に立っているため、聖母マリアを、小さ  
な村の目立たない乙女として描くことが多いようです。神がイスラエルを選んだのは、  
10 彼らが立派だったからでも、強かったからでもない。彼らが、むしろ、小さく貧弱だった  
からだに申命記にあります。「あなた方が救われたとき、家柄の良い者、知恵ある者、能力  
のある者は多くはなかつたろう。むしろ世の無力な者が多かつた。」とパウロも書いてい  
ます。

人の思いと神の思いとは、異なっています。人は目に映ることを見るが、神は心をごら  
15 んになる。主がマリアを選ばれたのは、彼女が立派な家の見かけの優れた女性であったと  
いうことではない、神は彼女の心をごらんになりました。

#### 【み心が成りますように】

「御心がこの身に成りますように」自分の身に起こる、いわれのない苦しみを彼女は受  
け入れました。彼女の一生は苦難の連続であったに違いありません。イエス様を身ごも  
20 ったが故に、彼女は最初から苦勞が絶えなかつた。ヨセフは誠実で信仰深い夫でありまし  
たが、彼女と共に過ごした年月は長くはなかつた。イエス様が公のご生涯に入られたとき、  
すでにヨセフはおりません。マリアはイエス様の様々な苦難を、目の前で見なければなり  
ませんでした。イエス様ご自身が神の御心に従って生きることを選び取られてから、彼女  
25 の苦しみや悲しみは、世の母親とはかけ離れたものと成ったでありましょう。マリアが、  
神の御心を、この身に成りますように、と受け入れたように、イエス様もまた、神の御心  
を、この身に成りますようにと受け入れました。御心ゆえに、イエス様は十字架の道を選  
び取られ、十字架の上で無残な死を遂げられました。マリアは、愛するわが子が十字架を  
担い、茨の冠に傷だらけになりながらゴルゴタの丘をあえぎ登るのを見ました。十字架に  
30 手足を打ち付けられ、吊るされて、朝9時から午後3時まで苦しみ抜き、次第に弱りなが  
ら、ついに息絶えるのを見なければなりませんでした。

イエス様の死はいわれのない死。自業自得ではない。不条理の死です。罪なき者が、罪  
ある者たちによって殺される。正義はどこにもありません。不法で不条理です、この、イ  
エス様の不条理のきわみの御苦しみと死によって、私たちは救われました。まとわりつく  
罪を赦され、死んで後に永遠の命を約束していただいています。天での再会の望みを持っ  
35 ているのはイエス様の十字架の故です。イエス様が徹底的に神の御心に従ってくださ  
ったためです。イエス様の徹底した従順、それはマリアの従順に始まっています。神は救いの  
業を、マリアから起こしました。

今日の聖書の言葉に耳を傾けたいと思います。

## 【派遣】

26 六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。27 ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。

5 「六か月目」というのは、天使ガブリエルが祭司ザカリアに現れた時からです。洗礼者ヨハネの誕生が予告されて6か月目、天使ガブリエルが今度はナザレの村のマリアのところに遣わされました。天使は神のみ心を告げる徴、ガブリエルとは、「神の戦士」を意味します。人を罪と死の支配から取り戻す。その強いご決意を伝えるのが大天使です。天使は小さな村の貧しい乙女のもとを訪れました。当時の女性の結婚年齢は15歳から18歳くらいということですから、婚約中のマリアは13~16,7歳くらい。まだあどけなさの残る少女でありましょう。

28 天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」29 マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。

15 ガブリエルは「おめでとう、恵まれた方」と語りかけます。主が共におられる。主が共におられることはまことに恵みです。しかし、彼女は今まで、このように話しかけられたことはなかった。この丁寧なあいさつは「一体何のことだろう、と考え込んだ。

30 すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。31 あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。

20 と告げられます。男の子を産む。それが恵みである。結婚し、子供の生まれることを願っている者にとっては大きな恵みです。けれども、マリアはまだ結婚していません。理由なく子供ができるなら彼女の純潔が疑われる。ヨセフとの婚約が解消されるばかりか、姦淫の罪で死刑になることだってあり得ます。しかし天使は、「あなたは男の子を生む。その子を『イエス』と名付けなさい。」と告げます。「イエス」とは「主は救い」という意味。主なる神が人を救おうとしておられる。その御心がここにも示されています。天使は、さらに、その子の栄光ある将来を告げました。「その子は、偉大な人になり、いと高き方の子、と言われます。」「神は、その子に、ダビデの王座を継がせて下さる。彼は永遠に、イスラエルを治め、その支配は終わることがありません。」途方もない約束です。

25 けれども、彼女は婚約中の身です。たとえ天使のお告げが本当だとしても、このことをヨセフにどういふべきか。親や親族にどう説明したらよいのか。だれも信じてくれないでしょう。石打の刑は免れさせてもらえらるとしても、人々からつまはじきにされ、冷たい仕打ちを受けるに違い在りません。小さな村です。身を隠すところもありません。

30 マリアは不思議に思い、不安になった。そこで「どうしてそんなことがありえましょうか」と天使に尋ねました。

35 天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。」

天使は告げます。あなたに聖霊が降る、と。「その子は、神の力のもとに生まれ、初めから聖なる方、神の子である。」と。マリアはこのとき聖霊を受けました。私たちが洗礼を授かって聖霊を受けるとき、皆マリアと同じ霊を受けます。

### 【神に不可能はない】

更に天使は告げました。

36 あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。37 神にできないことは何一つない。」

5 「神にできないことは何一つない。」これは、創世記 18 章 14 節から引用された言葉です。この創世記 18 章 14 節というのは、アブラハムが 99 歳になったとき、彼の天幕に主が来られて、「お前に子供が生まれる」と告げた。そのとき、天幕の陰にいたサラは密かに笑います。すると主はアブラハムに言われた。「なぜサラは笑ったのか、なぜ年をとった自分に子供が生まれるはずがないとおもったのだ。主に不可能なことがあるか。」この言葉  
10 です。神が憐みをかけるとき、だれも、何も、止めることはできません。「私は恵もうと思う者を恵み、憐れもうと思う者を憐れむ」と主は宣言なさっておられます。

38 マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

15 「神にできないことはない。」これを聞いてマリアは答えます。「私は主のはした女です。お言葉どおり、この身になりますように」この言葉をきいて天使は去って行った。

### 【この身に成りますように】

お言葉どおりこの身に成りますように。 マリアは神の言葉を受け入れました。神の、「恵もうと思う者を恵み、憐れもうとする者を憐れむ」という、その御心を受け入れました。  
20 た。 聖霊を宿すマリア。ここから神に救いの出来事が始まりました。こうして生まれてくる主イエスもまた、み心を受け入れて十字架におつきになり、救いを完成してくださいました。

### 【ゲッセマネ祈り】

主イエスのゲッセマネの祈り。主イエスはこう祈り終わって、十字架への最後の道をお  
25 進みになりました。

22:42 「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」

母マリアが、お言葉通りこの身になりますよう

と祈られた道を、キリストもまた、御心のままに、とお進みになりました。

30 主イエスキリストが教えて下さった主の祈りを、私たちもまた、聖霊の助けを受けて祈ります。「み心が、地にもなされますように」と。

この地上にあなたの御心がなされますように。私に働きかけて下さるみ心に従います、私にできることはそれ以外にありません。

35 マリアが、お言葉通りこの身になりますように、と祈った、その祈りを通して、救いの出来事が起きたように、私たちの周りに起こる救いの出来事もまた、私たちの、御心の通りになりますように、との祈りから始まります。 恵もうと思う者を恵み、憐れもうと思う者を憐れむ。神のその、圧倒的な愛のみ力に、私たちが取り囲まれているからです。クリスマスまでの一週間。御心が成ることを深く祈りながら過ごしたいと思います。

